

花粉症対策まったくなし！ 都政に対し緊急提案！

花粉症は都民の4人に1人が患者であると推定されています。昨今の病状は深刻化し、その社会的・経済的影响は非常に大きいものです。花粉症が深刻化した背景は、戦後の国策としてスギの木等の針葉樹の需要予測を怠った国に大きな責任があります。

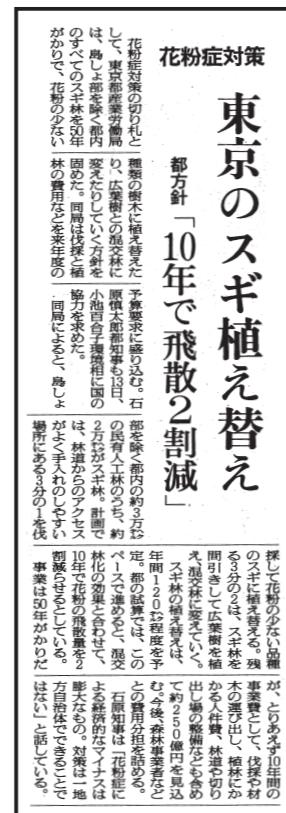
東京都は関東圏の八都県市首脳会議を開催し、国に対し発生源対策の提案等を行っていますが、遅々として進んでいないのが現状です。

尾崎大介はNPO法人日本エコクラブの参与としてこれまでスギの木等の針葉樹をどんぐり等の広葉樹に植え代えることにより、発生源対策を行つていけば環境保護の観点からも解決するという趣旨で活動をして参りました。

都政においては針広混交林化事業も現在まで1,440haしか進んでいません。また、花粉症対策としての管轄も環境局、産業労働局、福祉保健局の3局にまたがっています。窓口としては環境局が対応しておりますが、今後さらなる横の連携を強化してもらい、取り組んでいくことを提案していきます。



私が参与を務めているNPO法人日本エコクラブの活動の一環で、どんぐりの植樹を行ってきました。DAIGOエコロジー村と名づけたこの山は、八王子の最西端、恩方という所にあります。新宿の根本二郎区議会議員と後援会の方、また都内近郊から約40人の方達と一緒に花粉症の大敵であるスギの木やヒノキの木を伐採し、クヌギの木や栗の木を植えてきました。私からは東京都が現在取り組んでいる花粉症対策、またこれまでの私たちの取り組み等をお話させていただき、それから一緒に植林を行いました。



公営企業委員会初質問！ラッピングバスの広告料について追求。



公営企業委員会 初質問

交通局 都内などを走っているラッピングバスは、車両数においては平成十五年度末は四六八台、平成十六年度末には四三一台、また平成十七年度十月末には三六九台と、年々減少しているその原因是、

広告媒体としての清新しさや意外性が減少していること。また、フルラッピングバスは、制作費が高いため、費用対効果の面から広告主がラッピングバスを走らせたい地域及び広告予算を投下する時期を限定してきていることなどが挙げられる。

交通局 の貴重な財源収入である広告料収入が減少する。この中に対する経営努力と具体的な取り組みは。

広告の依頼が減少すれば、都政ト販売や、制作費の安いパートラッピングの販売などに力を入っている。このような取り組みにより、まだ回復したとは言えないと、本年十月のラッピング車両は年度当初と比べ七パーセントの増加となつた。

交通局 都営地下鉄では、本年五月から、新宿線について、朝のラッシュ時間帯の京王線からの相互直通運転の列車に女性専用車両を試入状況について。

尾崎 今後の提案 ①乗客サービスの向上を図る上からも新宿線以外の路線に女性専用車両の拡大を行つべき。
②相互直通運転を実施している各社との調整、導入に伴う混雑の緩和や乗客へのPR等、色々難しい面はあると理解できますが、女性専用車両の拡大はもはやさけて通れないものである。

